

### 各分科会へのお願いごとを2, 3

粒子・流体プロセス部会第6代会長に就任致し早や半年以上が経ちました。先日の東北大学での化学工学会秋季大会のおり、本部会幹事会を開催致しました。その中で各分科会の代表の方々に当方からお願い致しました2, 3のことをこの紙面をお借りして、会員各位にもお伝えしたいと考えます。

1つには、現在、本部会の HP の部分的な英文化を進めております。各分科会の設置趣意と最近のトピックスを含めてA4版1枚程度にお纏めのほどお願いをしております。会員各位におかれましても、このことで何かご依頼がございましたら、宜しくご協力のほどお願い申し上げます。

2つ目には、部会 CT を通じて教科書あるいは、専門書の出版を検討するようにとの依頼を受けております。過日行いました本部会幹事各位へのアンケートでは、積極的な賛成は余り見られず、早速には見送ることと致しましたが、作成に向けての検討を開始すると部会CTには回答致しました。各支部での講習会に伴う教科書・専門書の出版も時を同じくして進行しているものと考えます。具体的な、アイデアが何かございましたら、ご提案のほどお願い申し上げます。全分科会が必ずしも揃い踏みする必要はないものと考えております。

最後に、一番重たいお願いなのですが、本部会から推薦したアジア国際賞の候補者(中国の方です。)が、2013年の化学工学会年会で受賞されることとなりました。このことは大変にめでたいことなのですが、これに伴い本部会では、この年会で英語によるセッションを持つことになりました。年会2日目(3月18日(月))の午前中に開催の予定です。

セッションテーマは「粒子・流体プロセス研究の新たな飛躍に向けて(仮題)」とし、セッションオーガナイザーは、部会長、後藤副部会長殿、各分科会会長殿で行きたいと考えております。各分科会から、最低1名できましたら2名の英語ネイティブ・スピーカーによるご発表申し込みをお願いしております。昨今の我が国周辺を取り巻く、きな臭い政治的な状況が、大変に気掛かりではありますが、何卒宜しくご協力のほどお願い申し上げます。

末筆ながら、各位の研究進展と健康増進にご専

一のほど心より祈念申し上げます。

(部会長・上ノ山周(横浜国大教授))

### 2012年度 部会幹事会報告

2012年度第2回幹事会が2012年9月19日12:00~13:00に東北大学U会場(化学工学会第44秋季大会)にて開催されました。

出席者:上ノ山, 梶原, 後藤, 鷺見, 本間, 吉川, 太田, 水田(筒井代理), 西岡, 島田, 福井, 仁志, 三角

議題は以下の通りです。

#### 1. 各分科会への予算配分について

部会事務局より本年度の分科会への予算配分に関して説明があり、例年通り配分することが了承された。

#### 2. 粒子・流体プロセス部会の教科書・専門書出版について

部会長より化学工学会本部からの教科書・専門書発行の依頼、調査について説明があり、今回は見送り、今後、技術者・大学院学生向け専門書としての発行を検討していくことが了承された。

#### 3. 部会賞について

梶原副部会長より、本年度の部会賞の状況が説明され、了承された。

#### 4. 若手研究者・技術者を対象とした工場見学および交流会について

鷺見副部会長より、若手研究者・技術者を対象とした工場見学および交流会について説明があり、了承された。

#### 5. HP英文化について

部会長より部会HPの英文化への対応について説明があり、分科会HPについてもできるところから英文化を進めることが確認された。英文HPの作製においては外部業者を利用し、経費は部会経費とすることが了解された。

#### 6. IWPIについて

本間幹事よりIWPIの状況について説明があり、会議への参加が呼びかけられた。JCEJでの特集号の発行を検討していることが報告された。また、第2回潜熱工学シンポジウムについて紹介があった。

#### 7. ミキシング分科会活動報告および日台シンポジウムについて

吉川幹事(ミキシング技術分科会会長)より、日

台ミキシング技術シンポジウムについて説明があり、了承された。

#### 8. 分科会会計処理および収支簿について

事務局より部会会計担当者への会計処理説明会について報告され、収支簿、領収書の厳密な管理が依頼された。また、過去5年分の会計資料の学会本部への移管が報告された。

#### 9. 2013年度年会の英語セッションについて

部会長より年会での英語セッションの開催について説明された。同セッションでは、外国人による発表が望まれており、各分科会で一定数の外国人発表を検討することが提案された。

(事務局・仁志和彦)

### 第44回秋季大会シンポジウム報告

#### S-4 プラズマプロセッシングによる化学工学の新展開

第44回秋季大会においてシンポジウム「S-4 プラズマプロセッシングによる化学工学の新展開」(オーガナイザー:尾上薫(千葉工大)・渡辺隆行(東工大)・本間俊司(埼玉大))が行われました。本シンポジウムは、反応工学部会、熱工学部会、粒子流体プロセス部会(熱物質流体工学分科会)の3部会合同企画であり、本年度で3回目の開催となります。大会2日目(20日)の午前と午後に行われた今回のシンポジウムは、2件の展望講演と12件の一般講演から構成され、展望講演では、「新しい大気圧プラズマ装置の開発と表面処理および医療分野への応用」と題して東工大の沖野晃俊氏より、「大気圧プラズマ処理による高分子表面改質」と題して春日電機の田村豊氏からそれぞれ大変興味深いお話を頂きました。

反応、伝熱、流動を同時に取り扱うプラズマプロセッシングは、化学工学の対象として非常に重要な分野でさらに新しい応用が期待されています。次回秋季大会でも同様なシンポジウムを開催する予定です。粒子流体プロセス部会会員の皆様の積極的なご参加を期待しております。

(オーガナイザー・本間俊司)

#### S-25 粉体プロセス技術の新展開－基礎現象、基礎技術から単位操作、応用事例まで

粒子状物質は、粉体や気相中のエアロゾル、液相中に浮遊したサスペンション、スラリーなどの状態で幅広い分野で取り扱われている。そこで、本シンポジウムでは、それら粒子を取り扱う粉体プロセス技術について、基礎現象、測定・計測などの基礎技術から、実プロセスへの応用事例までの幅広い分野を対象として、最近の研究結果の講

演を募集した。その結果、31件の講演申込があり、秋季大会初日および2日目の2日間にわたりシンポジウムを開催した。

シンポジウムの初日は、午前および午後の最初のセッションで、ハミルトニアン粒子法など新しいシミュレーション手法の開発とDEM(=離散要素法)などの手法により粉体単位操作を解析した結果など、合わせて9件のシミュレーションに関する成果が報告された。続くセッションでは、流動層を中心とした乾式粉体操作の研究結果、一般廃棄物や炉からのダスト、廃コンクリートといった廃棄物からの有用物質回収に関する研究成果が報告された。2日目の午前は粒子生成と粒子特性評価を中心とした研究、午後は分級と分散の研究と、全体を通してみると、本シンポジウムの趣旨通り、基礎技術から、実プロセスへの応用事例までの幅広い分野の研究結果が報告された。これらいずれのセッションでも、絶えず20名以上の参加者があり、討論も活発であった。

なお、本シンポジウムでは31件の講演中、24件で学生が登壇した。この24件について、セッション座長およびシンポジウムに参加した粉体プロセス分科会幹事が審査をし、久留宮 晶さん(東京農工大学)をプレゼンテーション賞候補者として推薦した。

(オーガナイザー・後藤邦彰)

#### S-26 精密高度化・多様化するミキシング技術

ミキシング技術分科会では近年、製品のさらなる品質向上を目指した従来とは異なる新たな方式による攪拌技術の開発などによりミキシング技術の多様化が進んでいること、また、攪拌装置内の流動、混合状態の計測法および数値シミュレーションを含む解析法の精密高度化、多様化により従来とは異なる視点から装置の評価、設計がなされるようになってきていることに鑑み、標記シンポジウムを開催しました。最先端の攪拌技術、計測法、解析法に関する発表19件と展望講演、優秀論文賞受賞記念講演各1件、合わせて21件の研究発表がありました。展望講演では粒子・流体プロセス部会長横浜国立大学教授上ノ山周先生より20年以上に及ぶミキシング研究の中で特に力を入れてこられたCFDとトモグラフィの研究について概観していただくとともに、研究を進める上で重要な点、将来の展望などについて先生ご自身のお考えをお話いただきました。一般講演では攪拌槽における混合機構の詳細な実験、CFDによる検討、新たな混合装置の開発、実機で用いられる大型翼の性能評価、使用済核燃料再処理プロセ

スで利用される抽出装置における混合など「精密高度化・多様化」のタイトルにふさわしい研究成果が発表され、活発な議論が交わされました。最後に英文誌和文誌の優秀論文賞が大阪大学橋本俊輔先生に授与され盛会のうちに無事終了することができました。

(オーガナイザー・吉川史郎)

### S-27 熱物質流体工学の最前線

熱物質流体工学分科会主催によるシンポジウム「S-27 熱物質流体工学の最前線」が第44回秋季大会の初日(19日)に行われました。招待講演1件、優秀論文賞受賞講演1件、一般講演18件の合計20件の発表がありました。発表内容は、液滴など自由界面に関連する研究、高分子などの輸送物性や流動に関する研究、マランゴニ対流など界面不安定に関する研究、伝熱や放熱に関する研究、GPUによる数値計算に関する研究、など多岐にわたり、活発な討論が行われました。また、招待講演には、千代田アドバンス・ソリューションズの田口智将氏より「反応器開発への反応・流動解析の適用事例の紹介」と題した講演を頂きました。さらに、優秀論文賞受賞講演は、東北大学院の安村光太郎氏から「超高速回転ベルカップ塗装機を対象とした塗着効率を低下させる因子の数値解析的検討」と題して行われ、受賞者には講演の後に盾と賞状が贈られました。

なお、一般講演18件のうち8件が学生による発表で、座長および分科会幹事によりプレゼンテーション賞の審査を行いました。

最後に、オーガナイザーを代表して、シンポジウムを盛り上げていただいた発表者、参加者の皆様、大会の企画を行っていただいた部会幹事の皆様、秋季大会実行委員会の皆様にこの場を借りて感謝を申し上げます。

(オーガナイザー・本間俊司)

### S-28 気泡・液滴・微粒子分散工学 2012

化学工学会第44回秋季大会にて、恒例のシンポジウム「気泡・液滴・微粒子分散工学 2012」を開催しました。本シンポジウムでは、CFDに関する展望講演「気泡・液滴・微粒子を含むシミュレーション」を分科会副代表の島田直樹氏に行って頂きました。まず、これまでに提案されてきたいくつかのシミュレーションモデルの簡潔な説明がありました。次に、界面の分解能や計算負荷を考慮し、用途と目的に応じて使い分けたCFD事例を紹介して頂きました。事例が豊富で非常に分かりやすい、勉強になった展望講演でした。

一般講演では気泡・液滴・微粒子分散工学に関わる24件の講演が行われました。相間物質移動に関する研究が6件、混相乱流に関する研究が3件、測定技術・センサーに関するものが3件、CFDシミュレーション関連が3件など、これまでも馴染みある分野のほか、エマルジョン燃料や反応吸収スラリー系など新しい研究対象が取り上げられ、闊達な議論が行われました。また、本シンポジウムでは10件が学生による発表で、シンポジウム・プレゼンテーション賞の審査が行われました。

気泡・液滴・微粒子分散工学関連のシンポジウムでは、年々、幅広い分散工学のトピックスが発表されるようになってきました。化学工学における分散工学の重要性を再認識すると共に、本分科会シンポジウムにて、益々多数の発表が行われることを期待しています。

(オーガナイザー・島田直樹, 太田光浩)

### 2012年度粒子・流体プロセス部会賞 (奨励賞・プレゼンテーション賞) 決定

東北大学で開催されました化学工学会第44回秋季大会における粒子・流体プロセス部会関連企画のシンポジウム「S-4 プラズマプロセッシングによる化学工学の新展開」、「S-25 粉体プロセス技術の新展開—基礎現象, 基礎技術から単位操作、応用事例まで」、「S-26 精密高度化・多様化するミキシング技術」、「S-27 熱物質流体工学の最前線」、「S-28 気泡・液滴・微粒子分散工学 2012」での発表を対象として、シンポジウム賞(奨励賞とプレゼンテーション賞)が選考されました。

奨励賞は、審査を希望する37歳未満の正会員の発表を対象とし、プレゼンテーション賞は、社会人博士課程在籍者を除く学生会員による全発表を審査対象としました。厳正な審査の結果、下記の方々を受賞が決められました。

#### ○奨励賞

- ・田中 学 氏 (東京工業大学・総合理工)  
「多相交流アークの高温場の制御によるインフライトガラス熔融の高効率化」

#### ○プレゼンテーション賞

- ・久留宮 晶 君 (東京農工大・院)  
「表面修飾ナノ粒子のシリカ微粒子表面への有機溶媒中での湿式複合化と液中分散性」
- ・轟 慧 君 (横浜国立大・院)  
「回転円筒型液液抽出装置における流動状態に及ぼす装置スケールの影響の検討」



・藤村 将成 君 (東京農工大・院)  
「化学反応による界面張力減少を伴う Viscous Fingering に関する実験研究」

・二宮 脩治 君 (東京理科大・院)  
「スプレー式混合システムを用いたエマルジョン燃料の調製と燃焼特性評価」

受賞者の皆様、誠にありがとうございます。  
なお、「奨励賞」の受賞者には、来年 3 月に大阪大学で開催されます化学工学会第 78 年会時の粒子・流体プロセス部会総会にて授賞式を執り行いますとともに、年会内の当部会セッションにて記念講演をして頂く予定です。また「プレゼンテーション賞」の受賞者には、賞状ならびに副賞としての額縁が送呈されます。

最後になりましたが、審査にご協力を頂きました各位に紙面をお借りし、厚く御礼申し上げます。  
(シンポジウム賞担当・太田光浩)

#### 2012 年度ミキシング技術分科会 夏期セミナー 報告

毎年恒例のミキシング技術分科会夏期セミナーが 2012 年 8 月 28 日(火)、29 日(水)の両日名古屋市千種区のメルパルク NAGOYA で「歴史を創造する異相系ミキシング技術」と題して開催されました。冒頭に前粒子流体プロセス部会長で本年 3 月をもって定年退職された東北大学名誉教授齋藤文良先生に「ミキシング研究などでの 40 年」と題した特別講演をお願いしました。山形大学、横浜国立大学、東北大学における 40 年に及ぶ粉砕、攪拌、メカノケミストリーに関する精力的に行われた研究成果を示していただくとともに先生の教育に対する熱い気持を強く感じるお話でした。その後以下 5 件の講演をそれぞれの最先端でご活躍の方々にお願しました。

「気・液系および固液系におけるスケールアップ技術」

住友重機械プロセス機器(株) 森永昌二氏  
堀口洋郎氏

「マイクロバブルの生成と応用」

大同大学 松浦章裕氏

「薄膜旋回型攪拌機とその応用技術」

プライミクス(株) 春藤晃人氏

「W/O エマルジョンを用いた微粒子の合成」

東京理科大学 庄野 厚氏

「異相系反応機的设计において当社が経験してきたこと」

(株)神鋼環境ソリューション 南 俊充氏  
2 日間で講師を含めて 63 名とほぼ例年通り多くの方にご参加いただき、会員の皆様にとって有意義な情報交換、交流の場とすることができました。  
(分科会代表・吉川史郎)

#### 2012 年度第 7 回気液固分散工学サロ ン 報告

2012 年 9 月 19 日夕方より、東北大学・第 44 回秋季大会 S 会場にて、北見工業大学の三戸陽一先生を御招きして、「直接数値シミュレーション／ストカスティック・シミュレーションを用いた壁乱流内粒子分散の解析」と題した講演を行って頂きました。サロンへの参加者は 30 名ほどで、熱心に講演を聞き入りました。固気二相流に関する話題は非常に新鮮で、参加者から非常に好評でした。その後、交流会を開催し、新規参加者による自己紹介や前身の分科会黎明期から参加されている先生方より、若手研究者へ贈る言葉を頂くなど、非常に活発な交流がなされました。

(分科会幹事・水田 敬)

#### 粒子・流体プロセス技術コース 2012 (第 26 回流動層技術コース) 報告

粒子流体プロセス技術コース 2012(第 26 回流動層技術コース) は 10 月 10 日～12 日に産業技術総合研究所つくば西事業所にて行われました。参加者数は 7 名で、1 日目は初心者向け流動層解説と簡単な演習、2 日目は基本実習、3 日目は追加実習を行ないました。また、九州工業大学でのサテライト実習にも 1 名の参加がありました。来年度から実施場所を都内に移すと共に一時中断した講義の再開も検討しています。

(分科会代表・筒井俊雄)

#### 熱物質流体工学セミナー 2012 報告

熱物質流体工学セミナー 2012 は、秋季大会前日の 9 月 18 日(火) 15:30 より、東北大学工学部青葉記念会館 7 階中研修室(702 室)で開催されました。参加者は 20 名(うち学生 5 名)でした。

まず、「濃度界面が引き起こす液中微粒子の集団運動」と題して北海道大学大学院環境フィールド工学専攻の原田周作氏に講演を頂きました。休憩を挟んで、計測エンジニアリングシステム株式会社の橋口真宜氏から「化学工学分野における COMOSL の活用」と題する講演を頂きました。前半は、微粒子分散系における界面ダイナミクスの実験と理論的な研究の紹介、後半はマルチフィ

ジックスシミュレーションソフトの応用研究の事例紹介で、非常に有意義なセミナーとなりました。

引き続き、同じ建物内の3F レストランにて懇親会を行いました。参加者同士の懇親を深めると同時に、講師の先生方からも研究の詳細について直接伺うことができ、参加者にとってはさらに有意義な会となったものと思います。来年度も秋季大会前日にセミナーを企画する予定です。是非、ご参加ください。

(分科会代表・本間俊司)

### 微粒子工学講習会

#### 2011年度報告および2012年度の予告

2011年11月25日北海道科学技術総合振興センターにおいて、粉体工学会北海道談話会主催(北海道粉体技術研究会、化学工学会北海道支部、粉体プロセス分科会の共催)の「微粒子工学講演会」を行いました。「粉体処理技術のリサイクルへの応用を目指して」と題して、講演「都市鉱山と粉体技術」北海道大学・広吉直樹氏、「メカノケミカル法を利用する液晶パネルからのインジウムの回収」東北大学多元物質科学研究所・加納純也氏、「粉体処理技術とリサイクル」北海道立総合研究機構工業試験場・内山智幸氏の3件を行い、化学工学会、粉体工学会会員ほか、学生を含む58名の参加者がありました。

2012年度は11月28日に北海道立総合研究機構工業試験場において、「吸着・分離の最新技術など」というテーマで、北海道大学大学院工学研究科・佐藤努教授、名古屋大学エコトピア化学研究所・成瀬一郎教授、日本ベル株式会社開発部・吉田将之氏のご講演をいただく予定です。最新の情報は下記のサイトをご覧ください。

<http://www.mmm.muroran-it.ac.jp/~fjmt/danwakai/danwakai24.html>

(分科会代表・後藤邦彰)

### 分科会からのお知らせ

#### ミキシング技術分科会

前掲の秋季大会シンポジウム、夏期セミナーのほか本年度も例年通り東日本、関西東海、九州の3地区でミキシング技術サロンを開催いたします。内容が確定し次第ご案内いたしますのでご参加よろしくお祈いします。また、次の会計年度早々の行事ということになりますが2013年3月4日(月)、5日(火)の両日台湾の国立台湾大学におきまして日本と台湾の合同シンポジウム Taiwan-Japan

Joint Symposium on Mixing Technology が開催されます。このシンポジウムは昨年11月に日本の化学工学会と台湾の化学工程学会の間に協定が結ばれたことを契機に両国の化学工学の研究集会として計画され、他部会に先駆けて開催するものです。3月4日に研究発表、5日には新竹サイエンステクノロジーパークへの見学ツアーを予定しております。詳細についてはミキシング技術分科会事務局吉川 (syoshika@chemeng.titech.ac.jp) までお問い合わせください。

(分科会代表・吉川史郎)

#### 気泡・液滴・微粒子分散工学分科会

本年度より、分科会役員が新体制となりましたが、例年通りに主催行事や協賛行事を積極的に企画し、開催しています。

2012年5/11に気液固分散工学ニュースレター7号を発行しました。5/18には、講習会「化学工学計算の並列化基礎」を行い、盛況のうちに終了しました。化学工学会第44回秋季大会(東北大学)では、シンポジウム「気泡・液滴・微粒子分散工学2012」を開催し、分散工学分野の研究・開発に携わっておられる多数の方に参加を頂き、活発な討論ができました。また、秋季大会中には、第7回気液固分散工学サロンおよび分科会総会を開催いたしました。気液固分散工学サロンでは、「直接数値シミュレーション/ストカスティック・シミュレーションを用いた壁乱流内粒子分散の解析」と題して、北見工業大学・三戸陽一先生に講演を頂くとも共に、交流会では、会員相互の情報交換並びに交流を図りました。三戸先生の講演は、固気二相流に関する内容で、非常に興味のある話題で勉強になりました。

今後ですが、協賛行事である「第4回マイクロバブル・ナノバブル技術講習会:ナノバブル・マイクロバブルの実用化と最新計測技術の講演・実演展示会 ~ナノバブル・マイクロバブルの測定と応用事例~ (日本混相流学会混相流技術リエゾン専門委員会および近畿化学協会主催)」が2012年11/30に開催されます。また、ニュースレター8号を11月中に発行する予定です。さらに来年度の行事も順次計画しており、行事予定が決まり次第、分科会会員の皆様に連絡する予定です。皆様の分科会活動への積極的な参加を期待しております。

最近、固体分散系分野から分科会活動に参加して下さる方が増えて来ました。旧気泡塔分科会から気液固分散工学分科会に発展的に改組し、

幅広い分散工学分野を対象とした活動ができ、順調に分科会が発展していると感じます。斬新なアイデアの創成や困難な問題に対するブレークスルーは、様々な分野の研究者、技術者同士の議論が不可欠です。分散工学に携わっておられる方には、是非、本分科会活動に参加をして頂ければと思います。

より詳しい情報は、下記の本分科会 HP をご参照ください。

<http://www.applc.keio.ac.jp/~terasaka/BUDROPE/>  
(分科会代表・太田光浩)

### 流動層分科会

第 18 回流動化・粒子プロセッシングシンポジウムが 2012 年 11 月 8 日(木)～9 日(金)に大阪府立大学・学術交流館で開催されます。反応工学部会反応装置・プロセス分科会とのジョイントセッション(第7回反応装置・プロセスシンポジウム)、IEA-FBC とのジョイントセッション(第 65 回 IEA-FBC Meeting)も組まれています。詳細内容や参加申込みは、シンポジウムのホームページ [www.chemeng.osakafu-u.ac.jp/FB18/FB18.html](http://www.chemeng.osakafu-u.ac.jp/FB18/FB18.html) をご参照ください。また、問い合わせ先は、大阪府立大学 綿野哲教授 (Tel : 072-254-9305、E-mail : fb18@chemeng.osakafu-u.ac.jp) です。

(分科会代表・筒井俊雄)

### 熱物質分科会

既に報告しましたが、分科会の行事として毎年秋季大会前日に行われる「熱物質流体工学セミナー」と秋季大会のシンポジウムを企画しております。この他、国際シンポジウム International Workshop on Process Intensification (IWPI) を、本分科会が中心となり運営にあたってきました。これまでに神戸大、東工大、九大において2年おきに開催してきましたが、本年の 11 月 8～9 日には、University of Korea の Kim 教授を Chair man としソウルの同大学にて IWPI2012 が開催されます。海外での初めてのワークショップとなります。Plenary が 1 件、Keynote が 3 件、および一般講演 50 件(口頭発表 26 件、ポスター発表 24 件)が予定されています。Keynote Lecture では、「Applications of Computational Fluid Dynamics and Electrical Resistance Tomography, and their Future Development, in the Investigation of Phenomena in Mixing Equipment」と題して本部会長の上ノ山先生による講演が行われます。なお、IWPI は本年以降も引き続き開催される予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

(分科会代表・本間俊司)

### 粉体プロセス分科会

当分科会は、秋季大会のシンポジウムを主たる行事として運営しております。平成 24 年度は、前述のとおり、東北大学において開催された第 44 回秋季大会にて、「粉体プロセス技術の新展開－基礎現象，基礎技術から単位操作，応用事例まで」と題したシンポジウムを開催いたしました。この他、ニュースレター6号で詳しく紹介いたしましたように、一昨年度より、分科会のオリジナル行事として、新たに「先端微粒子ハンドリング講演会」を立ち上げ、これまでに4回の講演会を実施いたしました。

本年度はこれに加え、粉体プロセスに関するより広い工学範囲を対象とした「粉体プロセス工学セミナー」を立ち上げ、その第1回を 11 月 2 日に岡山にて開催いたしました。今回は、ちょうど来日中で会ったドイツ・エアランゲン大学・Wolfgang Peukert 教授に「Particles in contact – Adhesion and fracture characterization at the nanoscale」と題するご講演を、創価大学・松山達教授に「Electrostatic Charging of Particles」と題するご講演をいただきました。

本セミナーは、将来的には定期的な開催となるよう運営方法を模索していきますが、当面は不定期開催になります。開催案内は部会ホームページなどを通してアナウンスさせていただきますので、ご興味のある会だけでもかまいませんので、ご参加いただけますようお願いいたします。

(分科会代表・後藤邦彰)

### 部会への入会方法

化学工学会の個人会員(正会員、学生会員)で粒子・流体プロセス部会へ入会を希望される方は、化学工学会ホームページの「入会のご案内／部会入会の申込み」

([http://www.scej.org/jp\\_html/info/info.htm](http://www.scej.org/jp_html/info/info.htm))より、お申し込み下さい。

化学工学会の法人会員、化学工学会会員でない法人あるいは個人の方で、粒子・流体プロセス部会の賛助会員、特別個人会員になることを希望される方は、下記の粒子・流体プロセス部会事務局までご連絡下さい。

また、現在、分科会に所属されていない部会員で、入会希望の分科会がございましたら、部会事務局で受け付けますので、ご連絡下さい。

さらに、部会会員で配信メールが届かない方、あるいはメールアドレスを変更された方も事務局(仁志和彦)までお知らせください。

Phone/Fax 045-339-3988

E-mail nishi@ynu.ac.jp  
(事務局・仁志和彦)

#### 部会ニューズレター編集後記

紅葉の便りが届き始め秋が深まる季節になって、ようやくニューズレター8号をお届けできました。ご寄稿頂きました皆様にお礼申し上げます。新米編集担当の不手際で今回記事を掲載できなかった部会行事も多々あります。これらについては次号以降で皆様にご紹介したいと思っております。

また、ニューズレターへの記事や写真の投稿も歓迎しています。ご意見・ご要望も含めて編集担当まで連絡頂ければ幸いです。

(ニューズレター編集担当・本間俊司・福井国博)